

属名など	水やりポイント		水やりの詳細
[コチョウラン] Phalaenopsis	夏: 多目	冬: 少なめ	夏は多め、冬は少なめを基本とします。また、与えるときにはたっぷりと与え、次の水やりは植え込み材料がやや乾くまで待ってから行うようにすることも大切です。びしょりとぬれた状態で寒さに当たると根腐れを起こしやすいので、冬の水やりには注意が必要です。
[デンドロビウム] Dendrobium <ノビル系>	初夏～9月: たっぷり	10月から乾かし気味	もともと樹木に着生するランですから、根がびしょりとぬれたままになるのは嫌います。水をたっぷりと与えたあとは、植え込み材料がやや乾いてくるまで次の水やりは行いません。初夏から9月ごろまでは生育がおう盛になるので、この期間のみ、ややぬれていてもたっぷりと水を与えます。10月からは乾かし気味にし、ややバルブがやせてくる程度の水やりとします。その後節々から花芽が見え始めたら水をやや多めにして、開花まで同様の水やりをします。
<キンギアナム系>	春の新芽～秋のバルバ完成	秋～冬	春の新芽の伸び始めから秋にバルブが完成するまでは、比較的多めに施します。秋から冬は乾燥させます。春に花芽が伸び始めたら十分な水やりを行います。花芽が伸び始めてから水が足りなくなると、せっかくの蕾が開花せずに落ちてしまいます。
原種: ロディゲシ	冬以外は、水を好むが過湿にならぬように	冬: 寒風と霜を避け、乾燥気味にする と屋外で越冬	
<デンファレ系>			
<フォーサモス系>			
[デンドロキラム] Dendrochilum	通常は、乾いてから水やり。花芽・新芽時期は、乾かし過ぎに注意	秋: 長雨に当てない	植え込み材料が乾いてから、水やりするのが基本です。気温や乾き具合に応じて、水やりの量と回数を調整しましょう。パーク植えのものは、乾きすぎに注意をしましょう。梅雨の間は雨に当ててかまいませんが、植え込み材料が乾いていたら水やりをします。7月から9月は早朝と夕方の時間帯に水やりを行います。秋の長雨に当てると、病気の原因になるので、当てない方が無難です。花芽や新芽が生じている株は、生育に影響するので、乾かしすぎないように注
[ディネマ] Dinema	春(新芽)～秋 十分な水やり	冬 やや乾かし(蕾が出たら水を切らさない)	春に新芽が伸び始めてから秋にバルブがしっかりと太るまでは、十分な水やりを行います。冬はやや乾かし気味で大丈夫ですが、蕾を見つけたら水を切らさないようにします。
[エピデンドラム] Epidendrum	夏: 新鮮な水を与え続ける	冬: やや乾かし気味	植え込み材料が少し乾き始めたところにたっぷりと与えるようにします。夏の気温が高いときは、鉢内がぬれていても新鮮な水を与え続けます。冬の間は、やや乾かし気味に管理します。株が大きくなると気根を株の上部から出すので、水やりのときに空中にある根にも水をかけます。
[ハウエアラ] Howeara	夏: 木陰に吊るし、毎日一回夕方に頭から株全体を洗い流すように与えます。	冬: 水も控えめに鉢の表面が乾いているのを確認して夜には乾いている程度に与えます。	(夏場) オンシジウムに比べると暑さを嫌い直射も苦手ですから、直射日光を嫌い涼しい湿った風を好むので木陰などに吊るすのがポイントです。水は毎日一回夕方に頭から株全体を洗い流すように与えます。(冬場) 水も控えめに鉢の表面が乾いているのを確認して夜には乾いている程度に与えます。<開花中の管理> 水は鉢の表面が乾いてから与えます。大体3.4日に一度です。一律に毎日一回与えるのは多すぎます。出典: タローさんの洋らん栽培
[マキシラリア] Maxillaria	春～秋 たっぷり水	秋の終わりから室内 蕾が出たら開花まで水を増やす。	春から秋までの生育期間中はたっぷりと水を与えます。秋の終わりに室内に取り込んでからは乾かし気味に管理し、蕾を見つけたら開花するまでは少し水をふやします。
[マスデバリア属] Masdevallia	真夏: やや乾かし気味に管理する		水を蓄えるバルブをもたないので、乾燥には注意が必要です。通年、植え込み材料が乾ききる前に水やりをします。ただし、真夏に屋外で管理しているときは、湿った植え込み材料が暑さで煮えたようになり、根を傷める心配もあります。真夏はやや乾かし気味に管理することも一案です。
[オンシジウム] Oncidium	花茎が伸び始めたら、間隔を狭めていく。	晩秋: 水やり間隔を あける。	オンシジウムは水を好むランです。植え込み材料が乾いたら、鉢の大きさと同じくらいの量の水を少しずつ注いで与えましょう。晩秋から気温が下がったら、徐々に水やりの間隔をあけていきますが、花茎が伸び始めたら、今度は間隔を狭めていきましょう。どんなときも、1回に与える水量は変えず、水やりの間隔で水やり具合を調整することが大切です。